館報 おかだ

令和3年1月1日現在
世帯数：3,165戸
男　：3,540人
女　：3,675人
計　：7,215人

2021 令和三年 あけましておめでとうございます

昨年は世界中が新型コロナの脅威にさらされ、大変な年でした。昨年末12月25日には、松本市の成人式（1月10日）の5月延期が決定され、年明けの8日には、感染警戒レベル5、「特別警報Ⅱ」が発出されました。こうした状況も想定した上で、岡田公民館では、感染予防対策を徹底した新成人の記念撮影は可能と判断し、恒例の「地区が新成人を祝福する記念撮影」（平服）の実施を、事前に周知していました。直前の警報Ⅱの発出事態に、参加者が皆無になることも心配されましたが、幸い、2名の新成人が颯爽と参加してくれました。

来賓として、中川博司長野県議会議員、所邦博岡田地区町会連合会長、三浦好弘岡田地区こども育成会長、冨岡詔子岡田公民館長、関政雄岡田地区地域づくりセンター長、の5名が例年通り参列しました。乾杯もない簡素な祝賀式でしたが、来賓代表の中川県議から、「成人式は延期になっても成人の日が成人を祝う日には変わりない。私たち世代も頑張るので、若い皆さまにも希望や夢を持って生きる事の出来る社会を作ってほしい。」との祝辞がありました。投票に行くだけでなく、いろんな形で政治に参加してほしいとのメッセージも印象に残りました。

新成人にはアンケートへの回答とインタビューへの対応をお願いし、将来を見据えたお話を伺うことができました（以下、抜粋）。

Q 今一番したいことは？
A 旅行に行きたい（2人）。
Q 岡田の好きな所は？
A 自然が豊かで暮らしやすい。
Q 成人式を迎えてどうですか？
A 出来るかどうかとても不安だった。もっと沢山の友人と会いたかった。
Q 友人と連絡を取りましたか？
A 県外に出ている人は帰れないと言っていた。
Q コロナの影響を感じる？
A 人と集まれないのがつらい。
Q 地元から出たいと思ったことは？
A 特に無い（2人）。
Q 独り暮らしはしたい？
A 橋詰さん・憧れはあります。
A 西村さん・寮生活も経験したが家が良い。
Q かなえたい夢は？
A 西村さん・早く結婚をして立派な家庭を作る事。
A 橋詰さん・誰からも頼られ信頼される自衛官になり、国の防衛に努める事。

（取材　三枝・浅輪）

右側：西村勇人さん（消防士）
左側：橋詰　歩さん（自衛官）

新成人の生まれた2000年４月～2001年3月の出来事あれこれ

☆ヒット曲 TSUNAMI（サザンオールスターズ）
☆五百円硬貨・二千円札発行
☆森内閣発足
☆介護保険制度スタート
☆シドニーオリンピック開催
☆ロシアプーチン大統領誕生
☆新語・流行語
おっはー・IT革命・Qちゃん
最高で金、最低でも金・ジコチュウ
☆今年の漢字「金」

生活雑記 生活習慣の見直しを

塩倉　薬膳コーディネーター　浅輪 克裕

昨年は前代未聞のコロナ騒ぎで今までとは違う生活を強いられました。

一度、メディアで○○が効くといわれると次の日には店頭からなくなる異常な事態に。

ここで一度原点に戻ってもらいたいのです。

感染を防ぐ手洗い、うがい、マスクの着用は当たり前になりました。次は自分の免疫力アップを心がけてほしいのです。

笑う。寝る。ストレスを溜めない。季節のものを食べる。これらが重要になってきます。

ここで言及したいのはストレスと食べること。

①ストレスは多すぎる情報によっても生まれます。

テレビやスマホを見る時間を減らし、情報をシャットアウトすることで、ストレスは緩和されます。

②季節のものを食べる。

日本には四季があり、その季節の旬があります。

・春は緑のもの、酸味や苦味のあるもの。
・梅雨など季節の変わり目には、黄色のものと甘味。
・夏は赤のもの、辛味と苦味が大事。
・秋は白いものと辛味。
・冬は黒いものと塩味。

などと季節に応じた物を積極的に選んでください。

他には運動や体を冷やさないなど、自分でできることはたくさんあります。

不必要に恐れず、上手に付き合っていきましょう。

岡田ほっとニュース

野菜の里
●岡田最北 山浦●

国道143号線両側の山間に位置する集落、「野菜の里」（私が勝手に呼んでいる）山浦を紹介します。

養蚕が主体だった時代から野菜栽培に転換し、現在の生産地にすることが出来たのは、土壌づくり、斜面地への潅水施設、品種改良と試行錯誤を繰り返しながら、先人たちが今の野菜の里を築いてきたおかげだと聞いています。それらを引き継いだ後継者は、野菜作りの名人・達人といわれています。

野菜作りの名人・達人たちは、苗を育て、定植、散水、永年培われた経験を武器に、自然と戦いながら新鮮で良質な野菜を栽培してきました。そうした努力の結晶が、山浦の特産物としてのセロリ、レタス、カリフラワー、白菜になったのです。「山浦集荷所」に出荷された野菜は、全国の市場に運ばれ消費者の元へ届けられています。

野菜の里や岡田地区の水田に欠かすことができない水源には、「田溝池」「六助池」があります。これらは、山沿いの集落では水の便が悪いために、灌漑用の「ため池」として誕生したものの一部です。

大正14年1月に諏訪湖で予定されていた第一回日本学生氷上競技選手権大会が、諏訪湖が凍結しないために、急遽、ここ岡田六助池へ変更されて開催されました。六助池は、学生スケート競技会発祥の地として歴史に名を留め、池の東側にそれを示す石碑が建立されています。

六助池と学生スケート大会の記念碑

六助池南山頂に鎮座する「正一位六助稲荷神社」は、養蚕・商店繁盛・無病息災などの神として信仰され、地元では祭祀が続けられています。この神社の本宮は、「京都伏見稲荷神社」です。

六助稲荷神社の初午祭

また、六助稲荷神社には、建立にまつわる逸話があります。それは、『…夜になると外を歩く人に、いたずらを仕掛けるキツネが棲み付き、余りのいたずらにこまった住民は祠を造り、灯明を上げて祀るといたずらが治まった…』と伝えられています。このいたずらキツネに六助と名前を付け、今もある古い祠を六助の奥の院と呼び、初午祭を続けています。

山浦の人たちは働き者です。これからも野菜の里の野菜を全国の食卓へ、そして小さな集落ならではの人と人との「絆」を大切に助け合いながら、新型コロナウイルスに負けない安心して元気に暮らせる町会を目指していきます。

（育成会会長　三浦好弘）

－研修報告－ 不戦の誓い

みなさんは、長野市松代町にある松代大本営を知っていますか。

太平洋戦争が終わる半年前、陸軍が松代に地下壕を建設していました。戦争を指揮する最高機関である大本営や皇居の一部を地下壕に移転させ、そこで本土決戦の指揮を執る計画でした。天皇、政府や軍、それに伴う施設が入るため大規模になり、しかも戦争状況が悪化していたため、一刻も早く完成させ移転しなければなりませんでした。そこには全国から約7千人、さらに当時日本の植民地だった朝鮮から約4千人の人々が動員されました。そして、昼夜問わぬ過酷で危険な突貫工事に従事していたのです。

しかし、工事の途中で敗戦となり、地下壕は使われることなく、戦後40年も放置されたままでした。その後、地元の高校生の問題提起がきっかけとなり、現在は戦争や平和、人権を学ぶ戦争遺跡松代大本営として、保存・調査・研究が続けられています。

令和2年11月の、岡田地区人権啓発推進協議会の研修会では、事前学習を経てこの松代大本営を見学してきました。「もう一つの歴史館」では、過酷な労働を強いられた人々が使った工具やトロッコ、粗末な宿舎の模型などが展示され、パネルには多くの犠牲者がでたこと、慰安婦のことなどの説明がありました。また建物の一部には慰安所の古材が使われていました。

人権無視の戦争の大罪を知り心が痛みましたが、暗く長い地下壕の見学は、それ以上に心が痛むものでした。75年前の過酷な強制労働の工事跡が、時が止まったまま残っていたのです。

地下壕の出入り口には「不戦の誓い」と刻まれた石碑がありました。戦争は二度としてはいけない、世界中のすべての人々が不戦の誓いをたててほしいと祈り、研修を終えました。

（民生・児童委員　松岡　酒井　恵）